

6 口腔内検査の状況

1) 現在歯の状況

(1) 一人平均現在歯数

一人平均現在歯数は23.7本(平成23年22.5本)で、うち健全歯12.2本(平成23年11.3本)、う歯11.5本(平成23年11.2本)(未処置歯0.7本、処置歯10.8本)となっている。

年齢階級別では、現在歯数は年代が上がるほど減少し、特に健全歯数が著しく減少している。

現在歯に対する健全歯、う歯の割合は、健全歯51.6%(平成23年50.2%)、う歯48.4%(平成23年49.8%)である。

図2-6-1 一人平均現在歯数
(20歳以上、総数、年齢階級別)

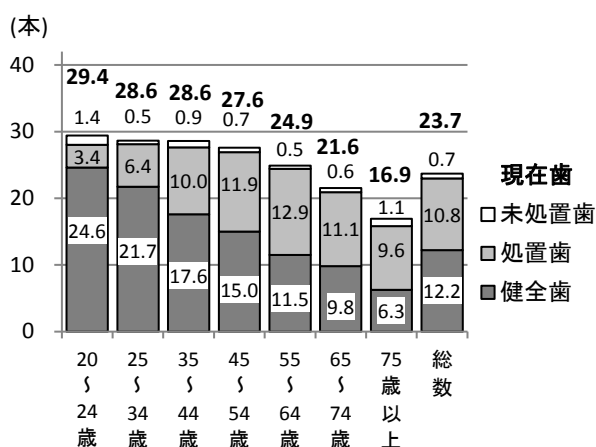
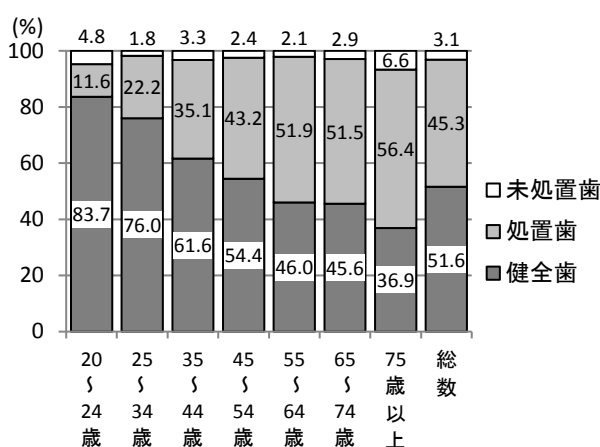


図2-6-2 現在歯に対する健全歯、う歯の割合
(20歳以上、総数、年齢階級別)



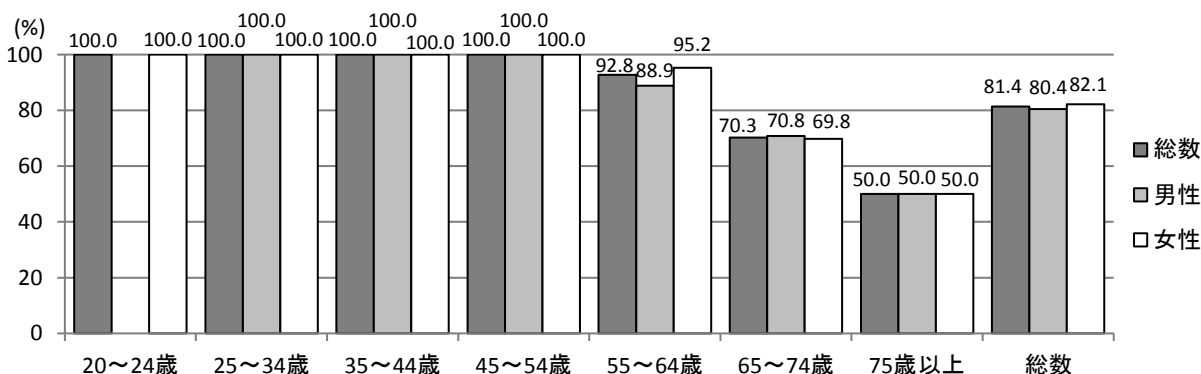
(2) 現在歯の保有状況

20歯以上有する者の割合は、年代が上がるほど減少する。

80歳(推定値)時の一人平均現在歯数は約18本(平成23年約14本)、20歯以上有する者の割合は52.0%(平成23年40.4%)である。

60歳(推定値)時の一人平均現在歯数は約25本(平成23年約23本)、24歯以上有する者の割合は78.3%(平成23年78.1%)である。

図2-6-3 20歯以上有する者の割合(20歳以上、性別・年齢階級別)



注) 20~24歳の男性は該当者がいなかったため空欄である。

表 2-6-1 80 歳における一人平均現在歯数の推定

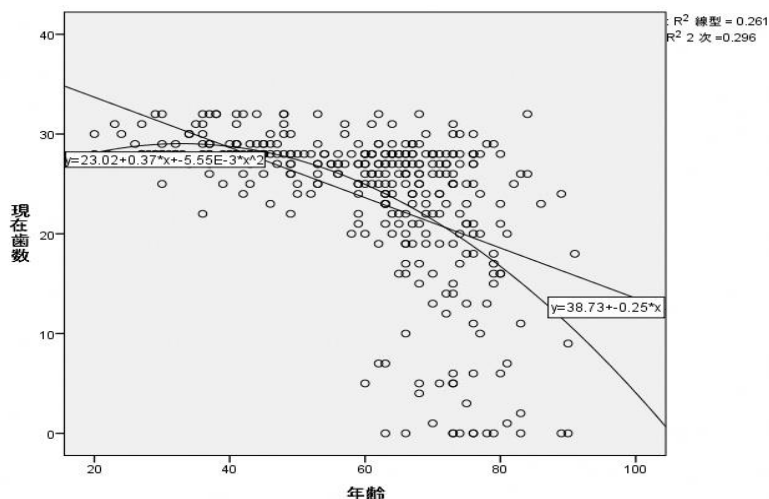
	一人平均現在歯数 (本)	20 歯以上有する者の割合 (%)
75~79 歳	18.0	52.9
80~84 歳	16.3	50.0
平均	17.4	52.0

表 2-6-2 60 歳における一人平均現在歯数の推定

	一人平均現在歯数 (本)	24 歯以上有する者の割合 (%)
55~59 歳	26.2	85.0
60~64 歳	24.4	75.5
平均	24.9	78.3

直線を当てはめた推定では 80 歳で 18.7 本、二次関数では 17.7 本である。同じく 60 歳では 23.7 本、25.8 本である。

図 2-6-4 年齢別現在歯数の分布



2) う歯の状況

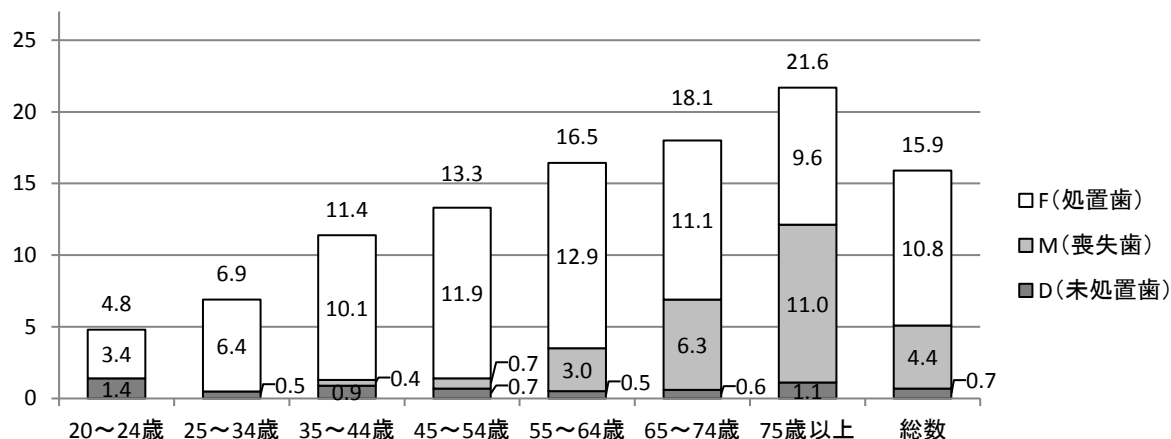
(1) 一人平均 DMF 歯数 (DMFT) 指数

一人平均 DMF 歯数は 15.9 本 (平成 23 年 17.0 本) である。

年代が上がるほど増加傾向がみられ、M (喪失歯) が増加している。

図 2-6-5 一人平均 DMF 歯数 (DMFT 指数・全体)

(本)



- 注 1) D : Decayed teeth の略=永久歯のう歯で未処置のもの
 2) M : Missing teeth の略=永久歯のう蝕及びう蝕以外の理由で喪失したもの
 3) F : Filled teeth の略=永久歯のう歯で処置を完了したもの
 4) DMF 歯数 = D + M + F

(2) う歯有病者とその処置状況

う歯の有病者の割合は98.8%（平成23年98.7%）である。

そのうち59.4%（平成23年67.5%）が処置完了、35.2%（平成23年30.7%）が処置歯・未処置歯を併有している。

ほとんどの年代において未処置は少ないが、45～54歳では7.3%が未処置である。

図2-6-6 う歯有病者
(20歳以上、総数、年齢階級別)

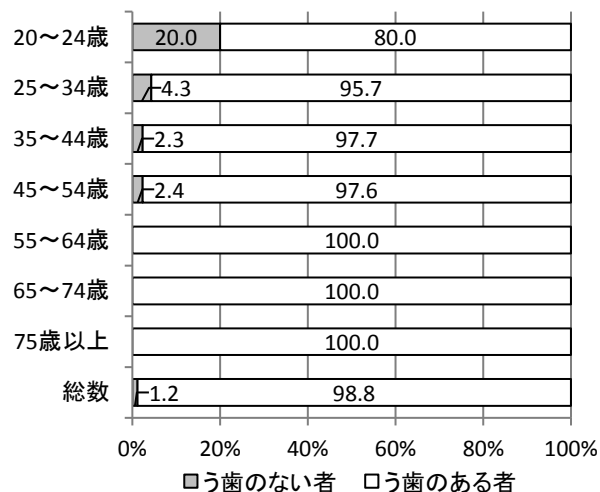
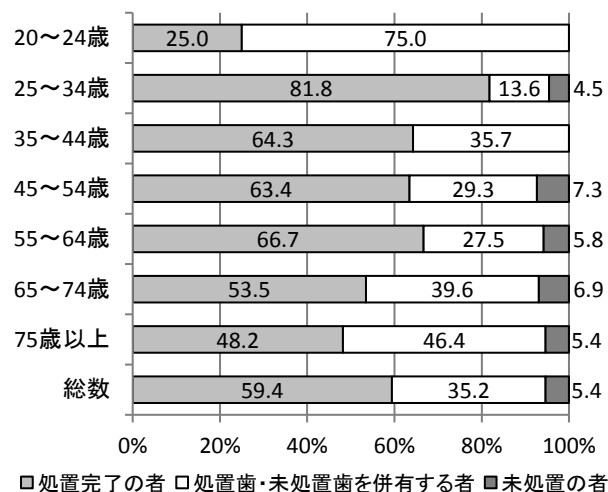


図2-6-7 う歯の処置状況
(20歳以上、総数、年齢階級別)



3) 喪失歯とその補綴の状況

(1) 喪失歯

喪失歯を所有している者は、全体の56.6%（平成23年62.5%）である。55歳以上で7割以上が所有している。

一人平均喪失歯数は4.4本（平成23年5.8本）で、年代が上がるほど増加する。

図2-6-8 喪失歯所有者率
(20歳以上、総数、年齢階級別)

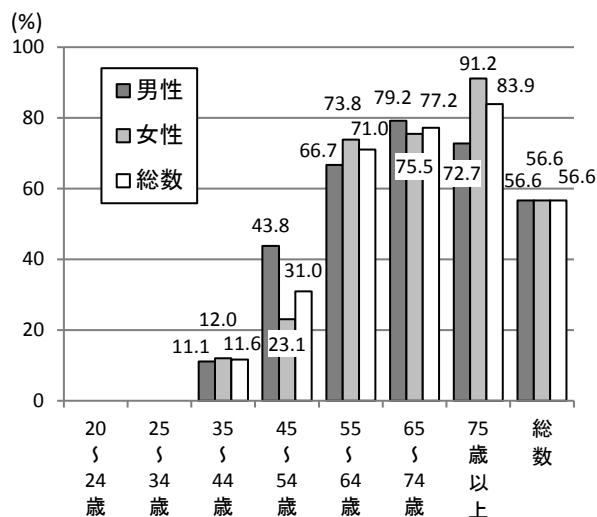
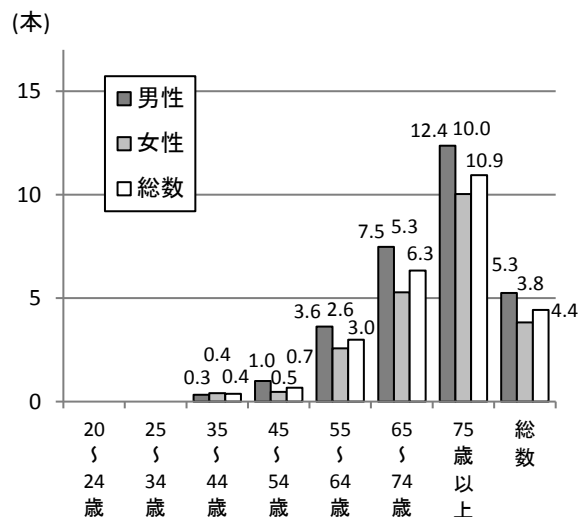


図2-6-9 一人平均喪失歯数
(20歳以上、総数、年齢階級別)

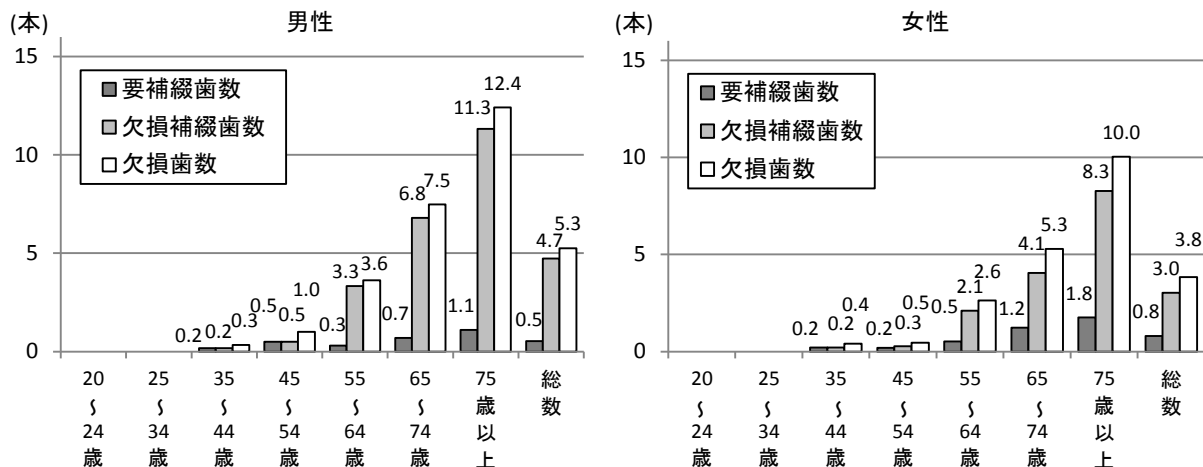


(2) 欠損歯数と補綴歯数の状況

欠損歯数、欠損補綴歯数は男性 5.3 本、4.7 本、女性 3.8 本、3.0 本である。年代が上がるほど増加する。

要補綴歯数は、75 歳以上の男性 1.1 本、女性 1.8 本である。

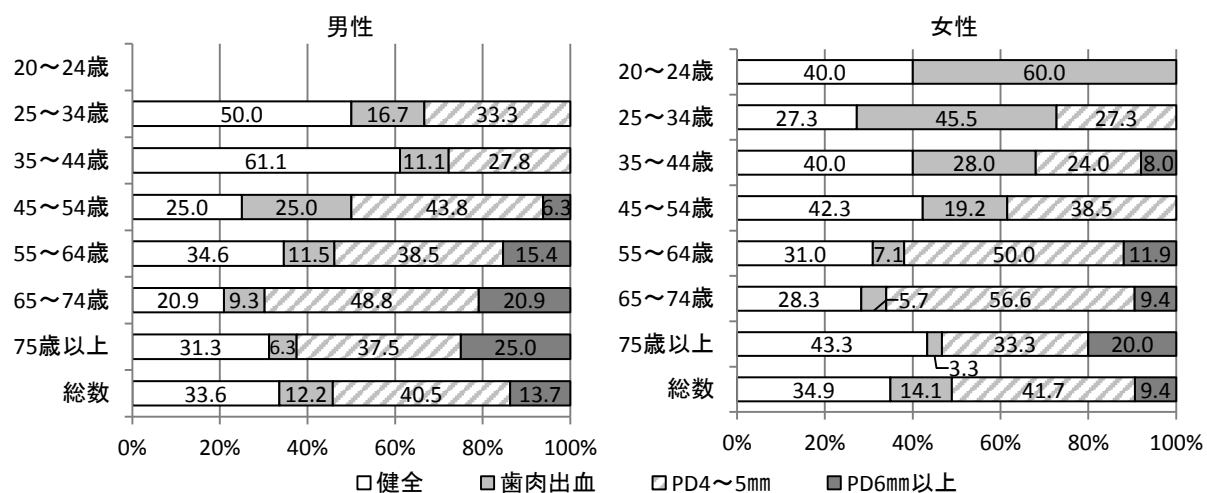
図 2-6-10 欠損歯数と補綴歯数 (20 歳以上、性別、一人平均)



(3) 歯肉の状況

歯肉に所見がある者は、男性 66.4%、女性 65.1%である。特に、男性の 65~74 歳、女性の 25~34 歳で健全の割合が低い。

図 2-6-11 歯肉の状況 (最大値) (20 歳以上、性別・年齢階級別)



注) 20~24 歳の男性は該当者がいなかったため表示していない。

歯肉状況について

歯肉状況は、部位別に 6 か所測定し、その最大値を上記で表している

歯肉の状態は、それぞれ以下のように定義される

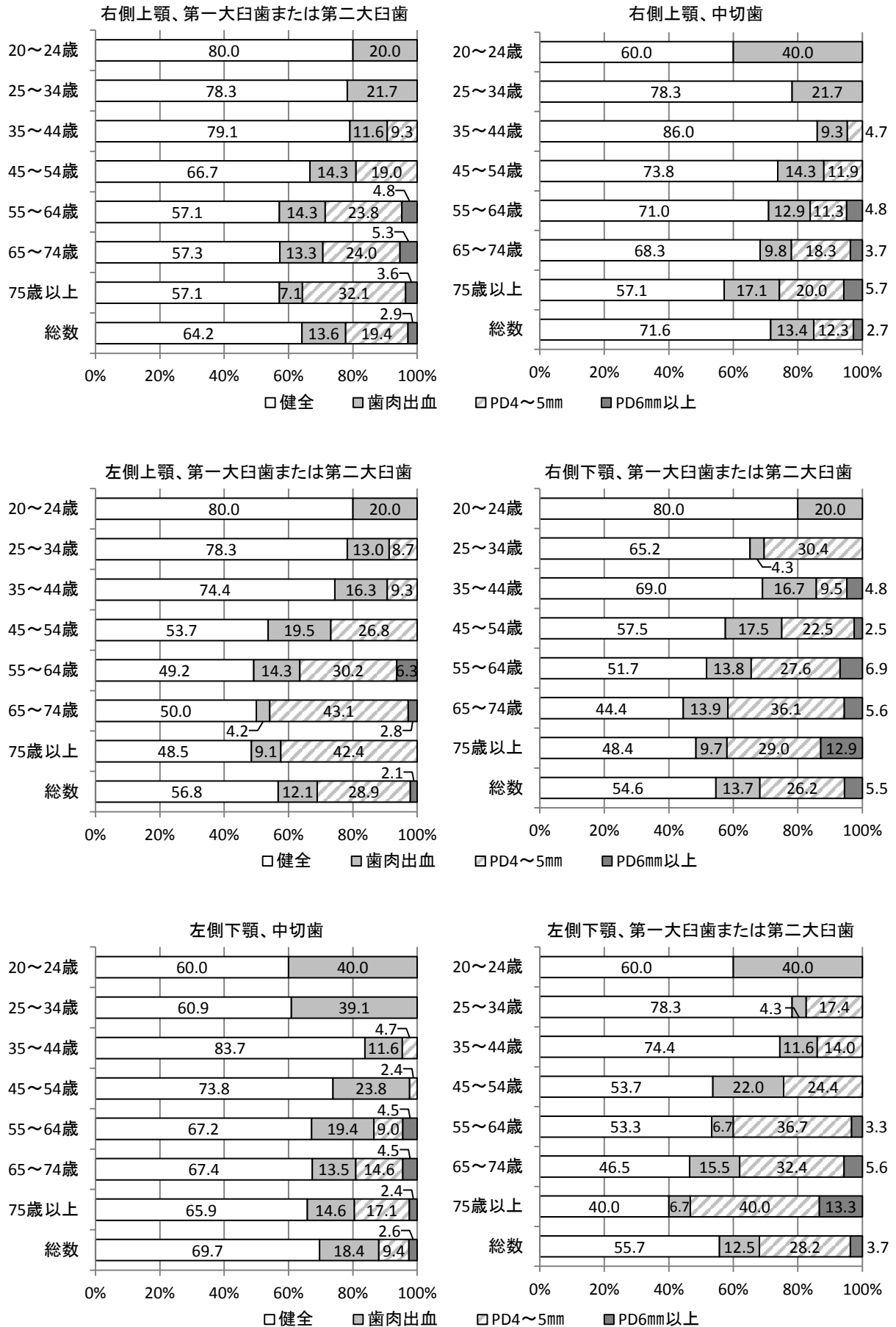
健全：歯肉の状況が健全であるもの

歯肉出血：検査時に歯肉出血を起こしているもの

PD4~5mm：PD(pocket depth：歯周ポケット)が 4~5mm の深さであるもの

PD6mm 以上：PD(pocket depth：歯周ポケット)が 6mm 以上の深さであるもの

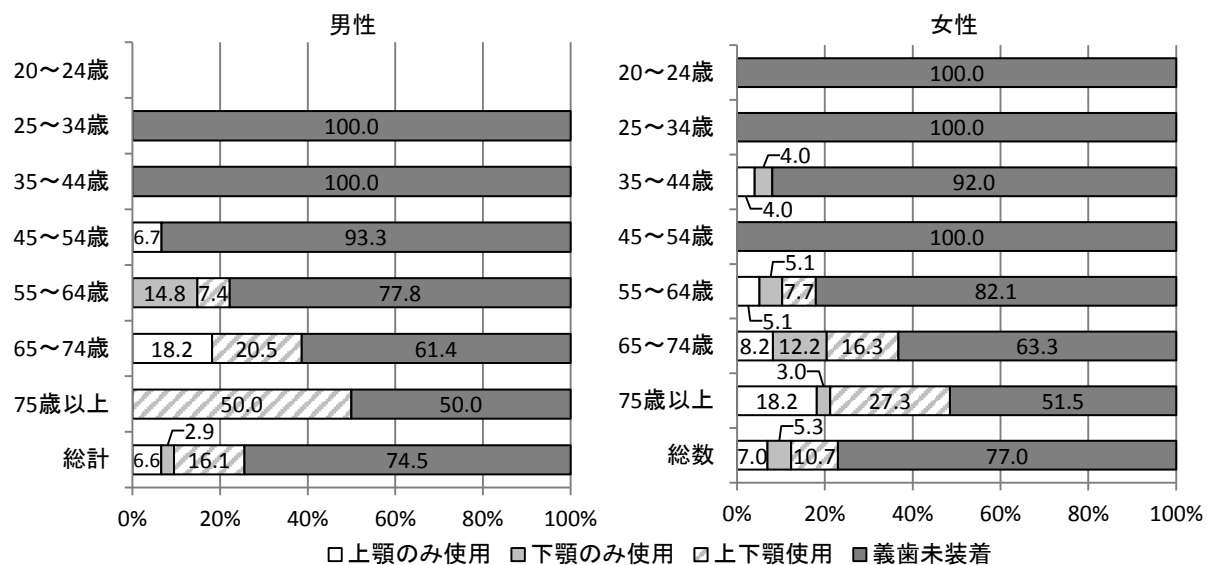
図 2-6-12 部位別歯肉の状況 (20 歳以上、総数、年齢階級別)



4) 義歯の使用状況

義歯を使用している者は、男性 25.5%、女性 23%（平成 23 年全体で 38.2%）である。55～64 歳では 2 割程度が義歯を使用しており、年代が上がるほど増加する。

図 2-6-13 義歯の使用状況（20 歳以上、性別・年齢階級別）

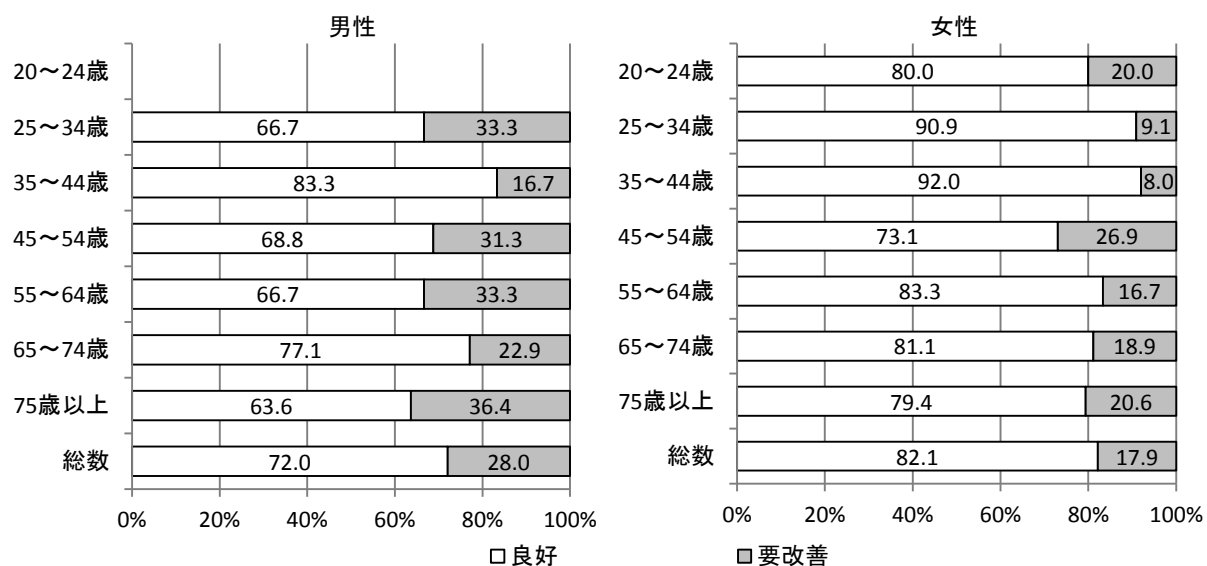


5) その他の所見

(1) 口腔内清掃状態

要改善の者は、男性 28%、女性 17.9%である。特に、男性の 75 歳以上、女性の 45～54 歳で割合が高い。

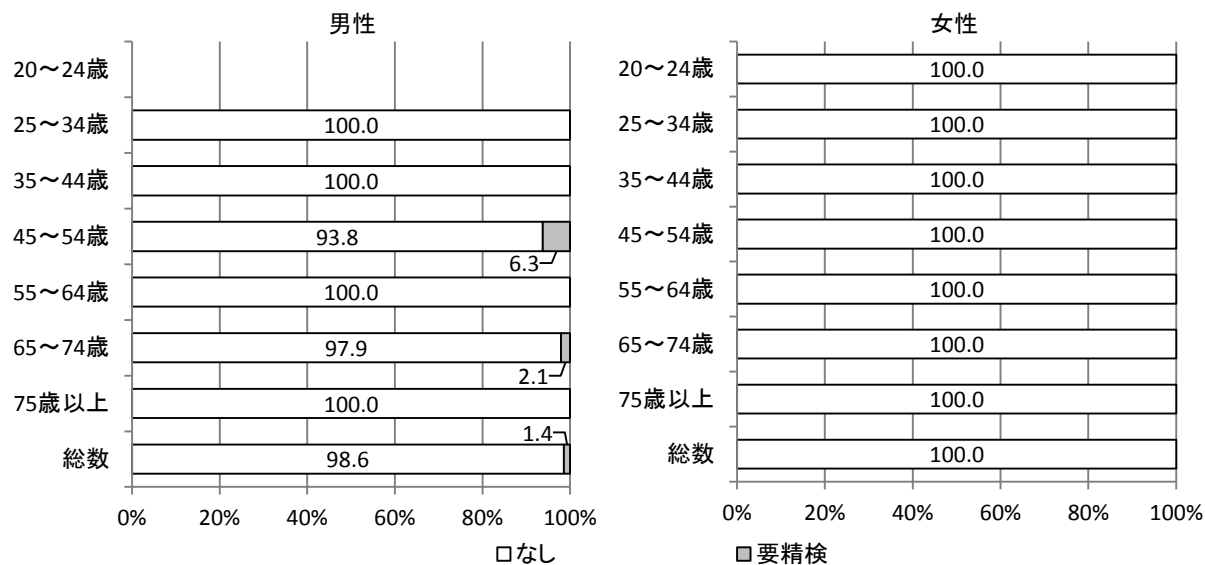
図 2-6-14 口腔内清掃状態（20 歳以上、性別・年齢階級別）



(2) 軟組織疾患

要精検の者は、男性 1.4%、女性 0.0%（平成 23 年全体で 1.5%）である。男性の 45～54 歳で割合が高い。

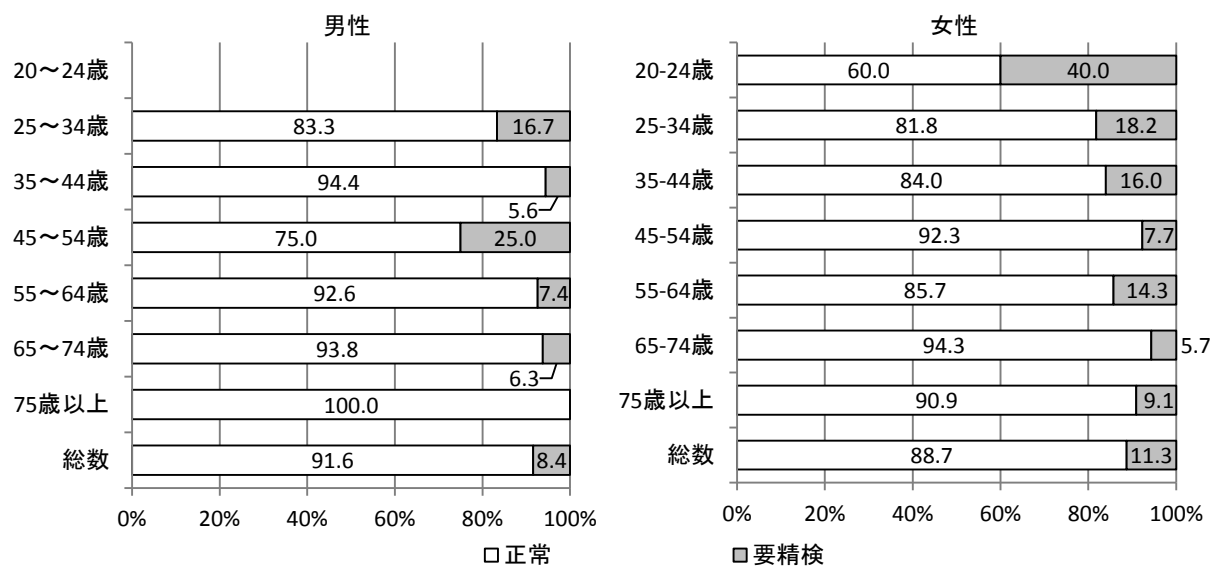
図 2-6-15 軟組織疾患（20 歳以上、性別・年齢階級別）



(3) 歯列・咬合状態

要精検の者は、男性 8.4%、女性 11.3%（平成 23 年全体で 7.9%）である。男性の 45～54 歳、女性の 20～24 歳で割合が高い。

図 2-6-16 歯列・咬合状態（20 歳以上、性別・年齢階級別）



(4) 顎関節異常

要精検の者は、男性 4.2%、女性 3.1%（平成 23 年全体で 4%）である。男女とも 25～34 歳で割合が高い。

図 2-6-17 顎関節異常（20 歳以上、性別・年齢階級別）

